

気がつく、2月が終わろうとしています

昔から「1月に行く、2月は逃げる、3月は去る」と言います。これは、1月から3月までは農閑期で、暇そうに思えるが、意外と行事が多く、あっという間に過ぎてしまって、多忙な農耕の時期がやって来るぞという戒めの言葉からです。年長は12月の園だよりに記載しました、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の実現に向けた活動、他学年においても、園の教育目標に向けた活動を継続していく次第です。わかり易く言えば、「自分の体や頭を使うこと、人と関わること、お世話することが好きな子ども」という姿に向けて日々過ごすことが大切です。これは、幼児期のみならず、小学校から高等学校までの教育の基本の「生きる力」と位置づけられているものです。

春に向けて「体づくり」を意識した活動も行っていきましょう。なわとび・とびばこ・マット運動・リズム体操・・・どの遊びにも体幹と腕、足の基礎体力（筋力）、リズム感覚が必要です。年少・年少々は柔軟体操、かけっこ、壁倒立。中・長はブリッジや壁倒立歩き、三点倒立や側転、片手側転、ロンダートなど体づくりを楽しみ雰囲気の中で行い、良い意味での競い合いをしながら、体づくりに励んでいます。

家の中でもできる柔軟体操など親子でおこないながら、友達と関わる“ごっこあそび”や“鬼ごっこやドロケイ”は体全体の発育を促しますので、春休みの間も意識をして取り組めると良いかと思います。現代の子ども達は、スマホやユーチューブが手軽に視聴できます。自分の好きなこと・ものだけに没頭できてしまう現代の子ども達は、自分で自分をコントロールする力が今まで以上に必要ですが、幼児期は自分で感情をコントロールすることが難しいですから、上手に親や周りの大人が環境を整えましょう。まずは、子どもと一緒にやり、声を掛け、やろうとしたら褒め、やったら褒める。これを続けていくことが大切です。（やったら褒めるではなく、褒めるからやるのです）